

令和 7 年度

こども・若者ワークショップ 開催報告

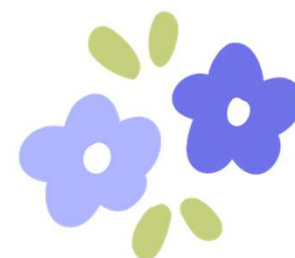
福岡県の未来について、みんなの声を集めました！



福岡県では、県の取り組みにこども・若者や保護者のみなさんの意見を反映させる機会として、「こども・若者ワークショップ」を開催しています。

本資料は、令和7年度の結果についての概要をまとめております。

ワークショップ開催概要



- ・ 日時 令和7年7月6日（日）
- ・ 場所 警固神社 社務所ビル5階
- ・ 参加者 小学生 5名 中学生 6名
高校生 6名 大学生 4名
保護者 5名
- ・ グループ

A	小学生	3名	中学生	3名		
B	小学生	2名	中学生	3名		
C	高校生	2名	大学生	1名	保護者	2名
D	高校生	2名	大学生	1名	保護者	1名
E	高校生	2名	大学生	2名	保護者	2名

話し合ってもらったテーマ



・こどもの居場所について

遊び場やオンラインなど、学校や家庭以外で安心できる多様な「居場所」をどう増やしていくか、今後の環境整備の施策に活用するため、意見を聴かせてください。

・環境保全活動や環境学習について

環境問題への理解を深める活動や、タブレットを使った新しい環境学習のあり方を探り、今後の県の環境計画などに活用するため、皆さんの意見を聴かせてください。

・インターネット適正利用の推進について

SNSのトラブルや闇バイトなどの危険から身を守り、安全にネットを利用できる今後のルールづくりや対策に活用するため、皆さんの意見を聴かせてください。

話し合ってもらったテーマ



・介護の仕事に対するイメージについて

介護の仕事が持つ「きつい」などのイメージを変え、楽しさや魅力を伝えるイベントなど、今後の理解を深める施策に活用するため、皆さんの意見を聴かせてください。

・国際交流・体験について

若者の海外離れが進む中、早い時期から外国の文化に触れる機会を作り、世界で活躍できる人を育てる今後の施策に活用するため、皆さんの意見を聴かせてください。

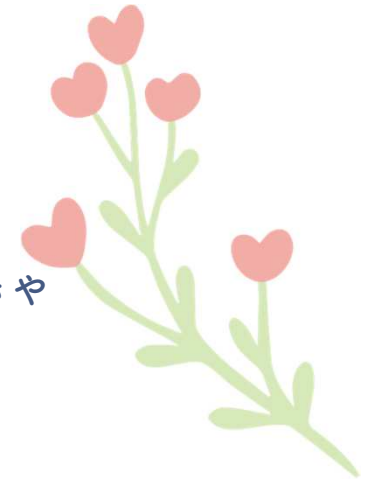
・いじめをなくすために自分たちでできること

いじめを防ぐため、大人や学校だけでなく、生徒の皆さん自身が身近で何ができるか話し合い、今後の安心な学校づくりに活用するため、意見を聴かせてください。

話し合ってもらったテーマ

- ・仕事と子育ての両立がしやすい職場環境について

誰もが希望する仕事と子育てを両立できるよう、育児中の柔軟な働き方や、働きやすい職場づくりを進める施策に活用するため、意見を聴かせてください。



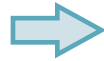
福岡県の各担当課の職員が
こどものみなさんの意見を
直接聞くために
ワークショップに参加しました。

こどもの居場所について

ワークショップでの皆さんの意見（主なもの）

Q.皆さんにとっての居場所とは？

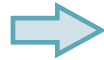
- ・家（友達の家）（小学生）
- ・学校、部活、習い事（小学生・中学生）
- ・心が落ち着くところ（中学生）
- ・何も考えなくてよいところ（保護者）
- ・地域の交流（若者）
- ・1人になれるところ（保護者）
- ・行政の会（若者）
- ・みんなで勉強するところ（小学生）
- ・気軽に話せる人がいるところ（中学生）



ポイント

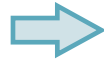
家や部活、習い事など、気軽に話せる人がいてありのままの自分を出せたり、ホッと心が落ち着く場所を挙げる声が多い傾向があります。

また、同じ目標に向かって一緒に頑張れる仲間がいる環境や、他人との交流ができる環境も、大切な居場所として求められています。



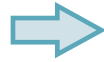
Q.どうやって居場所をみつけていますか？

- ・SNS（大学生）
- ・家族や友達から（小学生・中学生）
- ・県や市のHP（若者）
- ・学校の配布物（小学生）
- ・役所やスーパーの張り紙（中学生）



Q.どんな居場所があったらいいですか？

- ・衣食住確保できる場所（高校生）
- ・友達や趣味など共通のつながりがある場所（オンラインでも可）（高校生、若者）
- ・関わることがないような人と関われる（若者）
- ・まったく違う年代の人と話をする（若者）
- ・こどもの遊びの選択肢があるところ（保護者）
- ・気軽に行ける場所（中学生）
- ・新しいつながりを作れる場所（若者・保護者）
- ・天気や年齢を気にせず遊べる場所（高校生、若者）



家族や友達などの身近な人からの紹介で自分の居場所を見つける人が多い傾向があります。

このほか、学校のプリントや役場の張り紙、SNS、県や市町村のホームページなどの方法で居場所を見つけている人もいます。

ゲームや音楽など同じ趣味を持つ仲間と集まって、違う年齢の人たちとも楽しく交流できる場所を希望する声が多い傾向があります。

また、天気や年齢を気にせず思い切り体を動かせる遊び場や、学校帰りなどに気軽に立ち寄れる空間が求められています。

県の取組

県では、全てのこどもがそれぞれの状況に応じた居場所につながるができるよう、県内にある、こども食堂やフリースペース、プレーパークなどのこどもの居場所をWebで探すことができる「こどもの居場所マップ」を公開しています。

今後も市町村等と連携し、新たな居場所を掲載するとともに、多くの方に情報が届くよう、広く周知していきます。



環境保全活動や環境学習について

ワークショップでの皆さんの意見（主なもの）

ポイント

県の取組

Q.環境問題について関心があることは？

- ・地球温暖化や大気汚染（小学生・中学生・高校生）
- ・SDGs（中学生）
- ・食品ロス（中学生）
- ・環境にも効率もいい発電方法（小学生）
- ・家の近くで蛍が見られなくなった（小学生）
- ・ごみ処理の問題（高校生）
- ・再生可能エネルギー（太陽光や風力）



地球温暖化やごみ、食品ロスやSDGsなど、生活に関わる身近な環境問題に関心を持つ声が多い傾向があります。

そのほかにも、動物の減少や自然破壊、空気の汚れや再生可能エネルギーなどについての意見があります。



県では、地域環境協議会（地域の特性に合わせた環境保全事業を実施する協議会）で、地域の環境を生かした自然観察会や、出前講座、水辺教室などを行い、人材育成や啓発活動に努めています。これらのイベントの案内は、ホームページ等を通じて行っています。

みなさまからいただいた環境学習についての御意見は、地域環境協議会の中でも共有し、内容について検討していきます。

また、環境教育副読本や地球温暖化対策ワークブックを作成し、環境教育を推進しています。今後も環境教育教材の在り方については、引き続き検討していきます。

Q.環境学習についてどのように学びたいですか？

- ・イベントに行くと興味がわく（小学生）
- ・学習は紙派（覚えやすい、書き込みやすい）（小学生）
- ・学習はデジタル派（映像や拡大ができる）（中学生）
- ・体験型で学びたい（高校生）
- ・文字ばかりは分かりにくい。アニメや漫画にしてほしい（高校生）
- ・3D化やVR化で匂いや風景を体感したい（若者）
- ・デジタルだとわからないことや関連したことをすぐに調べやすい（中学生）



学校の授業や教科書を読むだけではなく、実際に見学したり、ゲームなどを通して楽しく学びたいという意見が多い傾向があります。

また、動画や3D映像など、パッと見てすぐに内容が分かりやすいデジタル教材の活用についても意見があります。



国際交流・体験について

ワークショップでの皆さんの意見（主なもの）

Q.もし外国に行けるとしたら、行きたいですか？

■行ってみたい

- ・英語が話せたら行ってみたい（小学生）
- ・言語が違々と新しい学びがあるから行ってみたい（中学生）
- ・興味はあっても金銭面や語学力が心配（高校生）

■行きたくない

- ・怖いから行きたくない（小学生・中学生）
- ・衛生面が気になるから行きたくない（小学生）
- ・日常と違うから行きたくない（中学生）

Q.もし外国に行けるとしたら、何をしてみたいですか？

- ・アメリカへ行って英語力を磨いてみたい（中学生）
- ・いろんなお祭りに参加したい（中学生）
- ・飛行機以外の乗り物で国を出てみたい（小学生）
- ・その国のレストランで、自力で注文をするなどして、英語力を試したい（中学生）
- ・自然を見てみたい（小学生・中学生）
- ・いろんな国の楽器を弾いてみたい（中学生）

ポイント

言葉が通じないことや安全面、お金の不安からためらう声がある一方で、外国語が話せたらぜひ海外へ行ってみたいという意見が多い傾向があります。

そのため、行くための費用のサポートや、安心して参加できるような手厚い支援が求められています。

海外ならではのきれいな景色を見たり、本場の美味しい食べ物を味わったりと、日本とは違う文化を直接体験して楽しみたいという声が多い傾向があります。

また、外国のレストランで英語を使って自分でお昼ご飯を注文するなど、実践的な経験が求められています。

県の取組

県では、渡航経験のない小中学生を海外に派遣する「はじめての海外体験事業」を実施しています。

安全面においては、治安の良さを重視した訪問国の選定、費用面においては、家庭に過度な負担とならない適切な参加者負担金の設定を行っています。

言語の壁についても、出発前の事前研修において、語学レッスンや文化・習慣の違いに関する学習機会を提供することで、参加者が安心して海外研修に臨めるようなプログラムを実施していきます。

今後も、現地の文化、歴史や自然に触れるツアーやワークショップ、現地での生活体験（ホームステイ等）、現地の人々との交流など、実践的で、異文化を直接体験できる活動を引続き提供していきます。

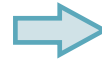


介護について

ワークショップでの皆さんの意見（主なもの）

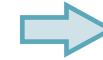
Q.介護の仕事に対するイメージ

- ・肉体的、精神的、経済的に大変（若者）
- ・介護職に就いた後のライフコースをしっかりと教えてほしい（保護者）
- ・需要が高いと思うが、ストレスや負担がすごい（高校生）
- ・相手の人生の一部になるようなイメージ（高校生）
- ・マネジメント職も多く含むというイメージは薄かった（若者）
- ・勉強量が多いイメージ（高校生）



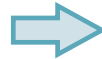
「きつい」「お給料が安い」といったマイナスなイメージや、実際の仕事内容がよく知られていないという声が多い傾向があります。

一方で、お年寄りとの交流などやりがいを感じるという意見もあるため、本当の仕事の様子を広く伝えて働きやすくすることが求められています。



Q.介護に関するイベントはどのようなものなら参加したいですか？

- ・介護される側の体験（若者）
- ・介護ロボットを体験できるイベント（高校生）
- ・若者とお年寄りが交流するイベント（高校生）
- ・実際の施設に行く（若者）
- ・職員のやりがいを報告しあう（高校生）
- ・若者が興味を持つようなイベントと併せて「介護」のイベントをする（高校生・若者）



介護だけのイベントは若い人が集まりにくいいため、他のイベントなどと一緒に開催して、気軽に参加できるような工夫を求める声が多い傾向があります。

また、最新のロボットに触れる体験や、お年寄りと直接交流して楽しく学べるような実践的な企画が求められています。

ポイント

県の取組

県では、令和8年度から、小学5・6年生、中学生、高校生を対象とした、介護の仕事の理解を深めるためのバスツアーを実施します。

このバスツアーでは、実際の仕事内容を知るため、介護施設を見学し、また福岡県介護DX支援センターを訪れ、介護に関する最先端の機器を体験することで介護に関する理解を深めてもらうこととしています。

また、小学生のコースでは、バスツアーに参加することにより、夏休みの自由研究として活用できる内容とすることで、参加の魅力を高めることとしています。

※介護DX

デジタル技術を活用して介護現場の業務効率化やサービスの質向上を図る取り組み



インターネットの適正利用について

ワークショップでの皆さんの意見（主なもの）

Q.安全にインターネットを利用するためには？

- ・家庭内でルールやフィルタリングの設定をする（高校生）
- ・インターネットトラブルを相談しやすい体制（保護者）
- ・学校の講義で定期的に教えるべき（週一、月一）（高校生）
- ・小学校のうちから教えていく（高校生）
- ・模擬的にダミーの失敗体験を経験させる（保護者）
- ・子どもが使う端末はすべて自治体のネットワークを通す（保護者）

Q.関係機関に求めることは？

- ・小学校から授業でルールを勉強すべき（高校生）
- ・取り締まりを強化してほしい。ネットパトロールでもっと厳しく取り締まる（高校生）
- ・警察は相談を聞くだけでなく、学校で定期的に講義を行う（若者）
- ・ポスター等を作成して掲示（高校生）
- ・ワークショップなどを実施（若者）
- ・行政の方も、学校での講習のようなものを実施した方が良いと思う（保護者）

ポイント

家庭内でのルール作りやフィルタリング設定など、親の管理を重視する声が多い傾向があります。

また、小学校など低年齢から段階的に学べる体験型の授業や、身近に相談しやすい環境づくりが求められています。

ネットパトロールの強化や厳格な取り締まりなど、警察や行政に強い対応を望む声が多い傾向があります。

また、専門家による学校での定期的で実践的な講義の実施や、啓発イベントなどへの積極的な支援が求められています。

県取組

警察署又は少年サポートセンターが行う非行防止教室等でインターネットの適正利用に関する講話を行ったり、通信事業者と協同し、小・中学校等に対して、インターネット等に起因する犯罪被害防止のためのスマートフォン安全利用教室を実施しています。

また、防犯アプリ「みまもっち」をリニューアルし、新たな機能として、ニセ電話詐欺被害疑似体験コンテンツを追加しました。実際に起こり得る詐欺の被害を疑似体験いただき、防犯対策に役立てていただける環境を提供しております。

他にも、インターネット上の不適切な書き込み（援助交際等）をサイバーパトロールにより発見し、注意喚起しております。

今後もこのような取組を通して、インターネット利用に起因した非行・被害防止対策に努めていきます。



いじめについて

ワークショップでの皆さんの意見（主なもの）

Q.いじめをなくすために、大人に協力してほしいことはありますか？

- ・すぐ対応してほしい（中学生）
- ・こどもから言い出せないことを代わりに言ってほしい（小学生）
- ・こどもに「いじめはダメだ」とわかるように説明してほしい（小学生）
- ・いじめについての教育を徹底すべき（若者）
- ・こどもに配慮したカウンセリングしやすい雰囲気を作ってほしい（中学生・高校生）



小さな変化に気付き、相談を後回しにせず真剣に耳を傾けてほしいという声が多い傾向があります。

また、相談した秘密が守られ、周囲の目を気にせずに安心して相談できる窓口などの環境づくりが求められています。

Q.自分たちでできることは何だと思いますか？

- ・小さな出来事でも伝える（小学生）
- ・仲間はずれにしない（小学生）
- ・いじめに関する正しい知識をつける（中学生）
- ・態度に出す、意見をはっきり言う（小学生）
- ・いじめがあったら相談に乗ってあげたい（中学生）
- ・いじめを見つけたら注意する（小学生）
- ・いじめについて正しく知る（小学生）



仲間外れにせず声をかけたり、小さなことでもすぐ大人へ伝えるなど、自ら行動したいという意見が多い傾向があります。



県の取組

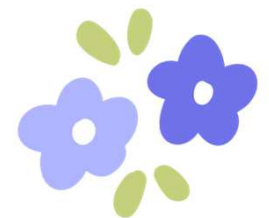
県では、いじめを未然に防止するため、互いが認め合い、学級や学校を安心できる居場所としていくことを全教職員で共有し、児童生徒にとって魅力ある学校をつくることに取り組んでいます。

また、いじめに悩むこどもの早期発見、支援をするため、相談窓口を設置しております。

【相談窓口】

- ・福岡県いじめレスキューセンター
- ・子どもホットライン24
- ・児童生徒の悩み相談窓口

今後も教職員への研修等において、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底していきます。

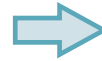


仕事と子育ての両立について

ワークショップでの皆さんの意見（主なもの）

Q.育休について

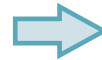
- ・子育てに集中できるが、職場に迷惑がかかるか心配（保護者）
- ・とれるなら積極的に取りたい（高校生）
- ・手取りが変わらないのなら取りたい（若者）
- ・制度的にとれるが、雰囲気的にとりにくい（保護者）
- ・育休から戻ったときに支援をしてほしい（保護者）
- ・休んでも代わりの人がいて、仕事が回るようにしてほしい（高校生）



ポイント

育休を取得したい意向はありつつ、職場への配慮や雰囲気から取得をためらう声が多い傾向があります。

また、収入面での不安や、育休取得後の職場復帰への不安を解消するための丁寧な支援が求められています。



物価高を背景に共働きを希望する声がある一方で、こどもが小さいうちは成長に寄り添いたいと考える人が多い傾向があります。

そのため、無理なく共働きを選択できるような育休などの手厚い保障が求められています。



県の取組

県では、従業員が育児をしながら、働き続けることができるよう、企業・事業所のトップに具体的な取組を宣言してもらい、「子育て応援宣言企業」として登録しています。

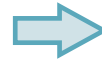
また、男性の育児休業取得率100%を目指す一般事業主行動計画を策定する中小企業に対し、助成金を給付することで、育児休業取得を促進する企業を支援しています。

他にも、育児休業や柔軟な働き方の導入・運用に関する企業向けセミナーを実施し、仕事と育児が両立できる魅力ある職場づくりを推進しています。

今後もこのような取組を通して、仕事と子育てを両立できる環境づくりを進めていきます。

Q.仕事と子育てを両立しやすい環境とは？

- ・生活にあわせて働く時間を調整できるフレックス制度（保護者）
- ・休みを取りやすい雰囲気づくり（若者）
- ・人が抜けても仕事が回せるようにした方がよい（高校生）
- ・テレワーク。子育て世代にいい、出社の時間を気にしないでいい（若者）
- ・預り所の空いている時間をもっと柔軟に設定できるようになるとよい（保護者）



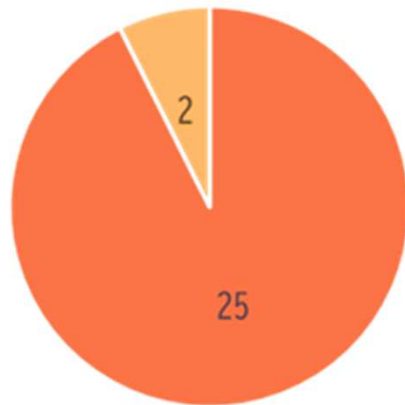
フレックス制度やテレワークなどの柔軟な働き方を重視する声が多い傾向があります。

また、休みやすい雰囲気づくりや、人が抜けても業務が回るようにするための代替要員の確保、育児支援サービスの拡充などが求められています。



○参加者アンケート

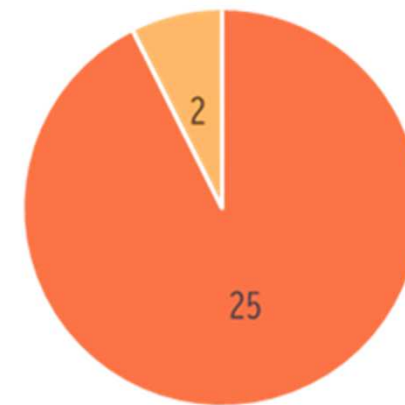
1 参加してみて、いかがでしたか。



■ 良かった ■ どちらかという良かった

①良かった	92.6%
②どちらかという良かった	7.4%
③どちらともいえない	0.0%
④どちらかという良くなかった	0.0%
⑤良くなかった	0.0%

2 こども・若者の意見を聴く機会があったら、また参加したいと思いますか。



■ 参加したい ■ どちらかというと参加したい

①参加したい	92.6%
②どちらかというと参加したい	7.4%
③どちらともいえない	0.0%
④どちらかというと参加したくない	0.0%
⑤参加したくない	0.0%

○参加者アンケート

3 今回のワークショップで、印象に残ったことを記入してください。（抜粋）

普段かかわらないような
年代の人と話して刺激に
なり、今後の参考になった。
(19歳男性)

環境のことやいじめのこ
とについて視野を広げる
ことができた。
(25歳女性)

居場所の在り方、
とらえ方について。
(17歳男性)

一人一人の意見をみんなに
伝わるように話を進められて
よかった。
(14歳男性)

介護の仕事について
どんな仕事があるかを
知り貴重な体験になった。
(17歳女性)

○参加者アンケート

4 これからの福岡県に期待することを記入してください。（抜粋）

こどもを取り残さない
政策を考えてほしい。
（18歳男性）

様々な世代の居場所
づくりをしてほしい。
（38歳女性）

若い世代と大人の意見を
交換する場を設けてほしい。
（19歳男性）

今日話し合ったことが
時間をかけて実現できたら
いい。（10歳女性）

Thank You!



ご参加いただきありがとうございました！
いただいた意見は県庁内担当課に共有し、
今後の施策検討や評価、見直しに活用させていただきます。